

2016 春闘本番！ JRで働く全ての仲間の力の結集で、 賃上げを勝ち取ろう！

賃上げ要求と夏季手当要求を提出

東日本ユニオン本部は2月15日、申第6号「2016年度賃金改定に関する申し入れ」と申第7号「2016年度夏季手当に関する申し入れ」を、経営側に提出しました。

JR東日本グループに働くすべての組合員・社員の努力は、過去最高の通期業績の実現を確実なものにしつつあります。

経営側は、組合員・社員の労働力の価値にふさわしい賃金、そして現在の生活を前進させることのできる賃金を支払わなくてはなりません。増加し続ける生計費は、2年連続のベースアップをもってしても補いきれず、生活を圧迫し続けています。さらに、政府およ

び日銀がめざす「2%の物価上昇目標」や2017年4月に10%への引き上げが予定されている消費税は、今後の生活設計に対する大きな懸念材料となっています。

JR東日本グループが持続的に成長するためには、収益確保に努力した組合員・社員が「働き甲斐」と「生活に対する安心感」を実感する賃金が不可欠です。

2016年度賃上げ要求

1. 2016年度定期昇給後の基本給ならびに初任給を、社員一律6,000円引き上げること。
2. 定期昇給は4係数とすること。
3. 「エルダー社員就業規則」および「グリーンスタッフ就業規則」を改め、社員に準じて賃金を引き上げること。

2016年度夏季手当要求

1. 2016年度年末手当は「基準内賃金の3.2ヶ月分」とし、6月30日までに支払うこと。
2. 55歳以上の社員（2016年6月1日現在）の年末手当に、一律5万円の加算をすること。
3. エルダー社員およびグリーンスタッフの精勤手当に、一律5万円の加算をすること。

実質賃金

賃金実質 4年連続マイナス

“実質賃金指数”物価上昇に追い付かず。

2月8日、厚生労働省は2015年の「毎月勤労統計（速報）」を発表しました。統計によれば「実質賃金指数」が前年を0.9%下回り、4年連続でマイナスになったことが明らかになりました。

名目賃金にあたる、労働者一人平均の「月間現金給与総額」は313,856円で、これは2年連続で増えたものの、伸び率は0.1%にとどまりました。

一方で、2015年の「消費者物価指数（生鮮食品を含む）」は、2014年4月の消費増税の影響や野菜、輸入食品などが値上がりし、1.0%上昇しています。このため、私たちの生活実感に近い実質賃金は、0.9%のマイナスとなっており、物価の上昇に「賃金（賃上げ）が追いついていない」ことを示しています。



経営側

本音は「ベアよりもボーナスで」

経団連など、経済3団体や各業界団体の新年祝賀会が1月5日に開催されました。

会場での経営者たちの声は「（賃上げは）確実にやります」「総収入を昨年よりさらに上げて、従業員に少しでも配分したい」「ベアを考えていきたい。賞与も上げる」など、前向きな声がある一方で「賞与はリーズナブルだが、ベアは慎重にやらないと会社を潰す可能性がある。バランスを見ながら考えたい」との慎重な意見もあり

ました。

今春闘も、政府の賃上げ要求に経営側が同調する「官製春闘」の様相を呈しています。しかし、経団連・榊原会長は「あえてベアは強調しない」として、過去2年間の考え方から方向転換する姿勢を示しました。つまり“ベースアップではなく（基本給を上げずに）、一時金（ボーナス）による年収ベース”で考えるということです。

労働側

政治主導の春闘打破! 闘いの主役は労働者だ!

一方のナショナルセンター・連合は、従来の取り組みに加え、サプライチェーン全体で生み出した付加価値の適正な配分に資する公正取引の実現に重視し、賃上げ要求水準は、それぞれの企業全体の「底上げ・底支

え」「格差是正」に寄与する取り組みを強化する観点から「2%程度」を基準とし「定期昇給相当分を含め4%程度とする」との基本的な考えを示しました。

また「中小企業で働く仲間や非正規労働

者の処遇改善に向け、より主体的な闘争を進め、大手追従・大手準拠などの構造を転換する運動にチャレンジする」とし、従来のような大企業中心の闘いから、中小労組や非

正規労働者の主体的な闘いに転換することを示しています。



主要産別の春闘要求

基幹労連 (鉄鋼・造船重機など)

ベア 4,000 円 (隔年春闘、2016 年と 2017 年で合計 8,000 円)

私鉄総連

ベア 2,500 円、年間ボーナス5ヶ月分

JAM ものづくり産業労働組合 (機械・電機・自動車など)

ベア 6,000 円

自動車総連

ベア 3,000 円



JR東日本 2015年度第3四半期決算

全ての利益が過去最高!

JR東日本の「第3四半期決算」が1月29日に発表されました。単体決算は、北陸新幹線の金沢開業効果やインバウンドの増加などにより、運輸収入が定期外収入を中心に増加し、営業収益・運輸収入は4期連続の増収かつ、第3四半期決算としては過去最高となりました。

また、連結決算も売上高・営業収益が過去最高となり、そのほか「ホテル業」「広告代理業」の売り上げも好調に推移し、4期連続の増収増益かつ、すべての利益が過去最高となっています。なお、通期の業績

予想は変更していないものの、営業利益は3,910億円、経常利益は3,390億円、当期純利益は2,200億円（いずれも単体予想）と、昨年を大きく上回っています。

社員の生活は三流

この好業績と比べて、グループ会社を含めた私たち社員の賃金や労働条件が「ふさわしいレベルだ」と言えるでしょうか。

「会社は一流、社員の生活は三流」ではありませんか？

2016 春闘を「オールJR労働者」で闘い、賃上げ（要求満額）を勝ちとりましょう！

社員の平均年収は421位

2016年1月8日発売の「週刊東洋経済」において、平均年収「東京都トップ500」が発表されました。記事によると、JR東日本は「421位タイ」という結果が明らかになりました。

この結果は、東京都に本社を置く企業のみ
の数字であり、全国的に見るとさらにラ

ンキングは下がります。また、後に発表された生涯賃金では、全国トップ500社にランクインすらできていません。このランクだけをみれば、この間の団体交渉において、当社の賃金レベルは他の民間企業と比べて「遜色なし」と言っていた経営側の主張に疑問を感じます。

2016 春季生活闘争勝利！ 関東フロック春闘集会

日時 2016年3月8日(火) 13時30分開会
場所 田町交通ビル5F 大会議室
(JR田町駅下車・徒歩3分)



全組合員参加の闘いで 満額回答を勝ち取ろう！

JR東日本労働組合東京地方本部

※中央本部「2016春闘news」から抜粋して作成しました。